

デビューしたてのミラRV-4とオートザムAZ-1。RV-4はフルタイム4WDにグリルガード、アンダーガード、リヤに育ったスベアタイヤと、小さいながらもRVムード、タブリのクルマとなっている。AZ-1はカブチーノのエンジンをミッドに積み、ガルウィングドアでスーパーカー顔負けのスタイルを誇る。もちろん走りは、Kカーならではの人車一体だ。

トレンドCHECK 3

個性派Kカーの巻

安い、楽しい、経済的、そして個性的、不況だけじゃなくエコロジーをも見据えて、Kカーがこれからのトレンドになる?



最近のKカーは楽しいぜ!

★銀座のババのお言葉



「目覚めよ、火薬を抱えた子羊達!」

Kカーに新風を吹き込んでくれたのは何といってもビート。8000rpmまで楽々まわるエンジンとミッドシップのレイアウトで、走りは正にファン・トゥードライブ。ハイパワースポーツとは違う世界が味わえる。カブチーノはよりパワーのあるエンジンとFRの組み合わせ。FRPのトップでオープンといえども耐久性は文句ナシ。



全長3.3m、全幅1.4m、排気量660cc。これが現在のKカーの規格だ。そもそもこのKカーという枠は、ようやく日本でクルマの生産が本格化したころ、一般大衆にもクルマが買えるようにしようとする通産省が始めた国民車構想がその源流となっている。これは定員、最高速、値段等の基準を定め、それらをクリアするクルマには開発費の援助を行うというものだった。もちろん、現在の軽自動車に開発費の援助はない。しかし税金面でかなりの優遇措置がとられているというわけだ。

つまり、本来Kカーというのは実用車であるべきで、だからこそ税金も安いのだ。

ところが、とどまるところを知らない自動車メーカーの技術は、Kカーにもハイパワー&豪華装備をどんどん与えた。時代が変わったといえはそれまでだが、その根本を見失い、ひとり歩きを始めてしまった、といっても過言じゃない。し

オレにもいわせろ!

一発必中
'93チューン直前予想
マイナスの場合
by
クラソー新倉

(☎0468-57-3313)



かも、昨年の車庫法改正を機に、「車庫証明のいらぬ特権」も、一部地域(東京23区と大阪市)だが、剽奪されてしまったわけだからネ。

じゃ、Kカーなんてもういらぬのかという、そうでもない。なぜなら、エネルギー問題で、これからのクルマはほとんど小型化していくと思われ、その点で日本のKカーは、世界のミニシアタイプをとる存在となり得るかもしれないからだ。

ただ、だからといって、今までのように、ただサイズの小さいクルマを作るだけというのではダメだ。プラスα、しかもKの大きさにいろいろな要素を詰め込むとかえって重々しくなってしまうから特色を前面に押し出し、必要のないものはスッパリと切り捨てた割り切りのいいクルマがこれから人気になっていくんじゃないかな。

と思っていれば、最近個性的なKカーが続々と登場してきたゾ。Kである以前に、一台のクルマとしてじゅうぶん魅力的なヤツらばかりだ。もちろん燃費はいし、税金も安い。そして取り回しも楽となれば、ほっておくことはない。とにかく、もうこれからはKカーだって恥ずかしくない、そんな時代になるはずだ!

これで3シーター作ろうかなッ。Kカーも欲しいでちゅ〜。



チューンドおもしろKカーの代表選手といえば、やはり、この雨宮シャンテ(マツダのシャンテに12Aロータリーエンジンを積み、200psを発生)。もう10年前くらいのクルマだが、未だに元気で走り回っているのだ。

GTR人気、まだまだ健在!

来年は引き続き、またまたGTRの年になるんじゃないかな。今までサーキットだとカストリート、最高速と、それぞれに強いクルマの開発がメインだったけど、これからはそれらを熟成させた、速くて乗りやすいクルマ作り、ということになるだろうね。

その対抗として、来年デビューするスーパーが注目株だね。スーパーについては、ウチはVX100M、車検対応ステンレスマフラー、電子パーツといったところから始めたいね。

電子パーツも、排気温度からブーストを調整するカシコイものなども出てくるし、そのあたりの充実も見逃せないゾ。